

メルマガご愛読の皆様、こんにちは。

NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以下セルラスと表記します)

日本は残念ながら敗退してしまいましたが、ラグビーワールドカップのベスト4が決まり、さらに盛り上がりを見せてきているのを感じます。

その試合観戦のためか、最近本当にいろいろなところで外国から来ている方を見かけます。

これまで外にあると思っていた“外国”が確実に国内にやってきているのを感じますが、そのようなことが当たり前になるであろう未来に向けて、皆さんは何か新しいことをやってみようと思うことはあるでしょうか？今回は、「未来社会を豊かに生きるための力を育てたい！」と思い入会されたお母さんの寄稿を紹介します。

今日は「即位礼正殿の儀」のため休日の方も多いと思います。

寒くなってきましたので、温かくしてじっくりとお読みください。

『できない、やらないが当たり前』

品川区在住 林 花乃子さん(家族構成：夫・長女小1・次女年少)

セルラスに入会する前、私は子供たちの習い事のことと焦っていました。

なぜなら「AI 社会に対応できる人材育成」「グローバル化」「自分から発信できる力」といったことを耳にすることが多くなり、何かさせなければと感じていたからです。

「英語を習わせようかな…でも週一回の英会話スクールが本当に子供たちのためになるのかな？」と悩んでいました。

そんな折、「多言語の習得活動」という耳慣れないことばに惹かれ、講演会を聞きに行ったのが、セルラスとの出会いでした。

【体験会に行ってみると…】

講演を聞いて、私はすぐに「楽しそう！やってみよう！」と思いました。しかし問題は、自分の名前さえ言えないほどの恥ずかしがり屋の娘たちがやるかどうか…。

そこで2人を(時には主人も)連れて、ピアザ(※1)や全体のイベントに何度も足を運びました。

そこで出会ったセルラスの子供たちは、多言語を当然のように話し、初めて会った大人に対しても自分のことをありったけのことばで伝えようとしていたり、こちらのことばを分かろうと真剣に話を聞いたりして、とても驚かされました。

しかしその隣には、輪の中に入ろうとせず折紙をしている娘たち…。

「やっぱりうちの子たちには無理かな…」と、半ば入会を諦めかけていたとき、私はふと20年以上前の『強烈な後悔』を思い出しました。

【過去の自分と対面する】

それは、私が高校時代、4泊5日のイギリスホームステイをした時のことです。

自分の意志でイギリスに行ったのに、なんと私はその期間中、ステイ先の自分の部屋から一歩も外に出ず、ほとんどホストファミリーともコミュニケーションをせずに帰ってきてしまいました。

「間違えたらどうしよう、ことばが通じなくて笑われたら恥ずかしい…。」

そんなことばかり考えていて、とても温かいホストファミリーの方々だったのに、本当に失礼な態度をとってしまったと後悔しました。

もしあの時、今日の前にいるセルラスの子供たちのようにちゃんと人と向き合って、自分の想いを伝えようとしていたら、もっと違うものを感じて帰ってこられたのではないか…。

そして今隣で折り紙を折りながら心を閉ざしている娘たちは、間違えるのが恥ずかしくて部屋に閉じこもっていた高校生の私と同じなんだ、と気づきました。

だから、子供たちがやらないから諦めるのではなく、「できない」「やらない」のが当たり前で、「だったらできるようになるまでやろう！いろいろな人と出会い、心の扉をすっと開けられるように親子で頑張っていこう！」と決断して、セルラスに入会しました。

【多言語の世界を知って見える世界が変わる】

入会して10カ月が経ちますが、私自身は世界がどんどん近くなっている感覚があります。よくわからない韓国語や、ほとんどなじみのなかったロシア語でさえ、テレビの中から流れてくるとわからないながらも何を言っているのか真剣に聞いてしまうことがあります。

娘たちは相変わらずで気が向いた時にだけやる、という感じですが、少しずつ変化はしていて、長女は、お風呂で1から10までをいろんなことばで数えてみたり、パパがやってもなかなか言えず苦戦していたスペイン語をペラペラと話してパパを驚かせたりしています。次女はほぼ毎週連れられて行っているだけで何もしませんが（笑）、留学生と一緒に1日を過ごす「One day trip program」に参加した時に作った「ウェルカムサインボード」に書いたネパールの国旗をよく覚えていて、街中で目ざとく見つけては教えてくれます。彼女の中にはきっとその留学生のことと共に印象に残っているのでしょう。

セルラスに参加している以外は今までと同じ生活を送っているのに、自分の意識が少し変わるだけで、聞こえる音や見えてくる物が変わってきたのがとても面白いです。来年は東京でオリンピックがあるので、日本でたくさんの国の言葉が聞けるかと思うと、今からワクワクしています。

今セルラスでリーダーとして大活躍している青少年たちの中にも、昔はお母さんの影に隠れて一言も話さないような子が結構いたという話を最近聞きました。

「なんでやらないの?!」と怒りたくなる時も時々ありますが、長い目でみながら少しずつでも前に進んでいけたらいいなと思っています。

(※1) ピアザ：週に1回各地域で行われるセルラスの活動拠点。様々な世代の人が集まり、一緒に多言語活動を行う。

いかがでしたか？

やらないのが当たり前、というスタンスから親子で取り組んでいくことを決断するには、かなりの勇気を

ふりしぼったことと想像します。

とかく、親としてはしっかりやらせたくはなりますが、そこをじっと我慢して、自分も一緒に取り組みながら見守っていくスタンスは、同じ親として見習うべきものがあると思いました。